HiKOKI

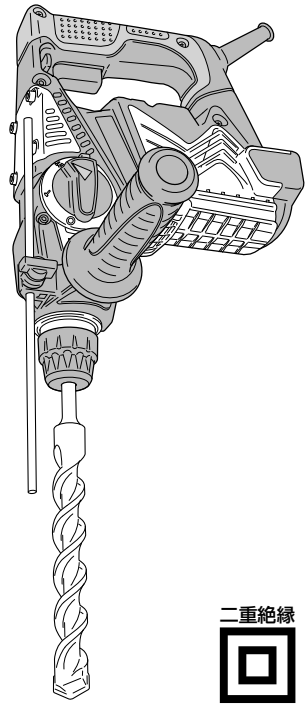
取扱説明書

用途
- コンクリートの穴あけ
- アンカ下穴あけ
- タイルの穴あけ
- コンクリートのハツリ、破砕、溝掘り、角出し、はがし
- 金属、木材の穴あけ【別売部品を使用】
- 小ねじ、木ねじの締付け【別売部品を使用】

ロータリハンマドリル

28 mm DH 28PC [SDSプラスシャンクタイプ]

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



二重絶縁

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended.No authorized service or warranty is available outside of Japan.

はじめに

電動工具の安全上のご注意…… 1
二重絶縁について…… 3
本製品の使用上のご注意…… 4
各部の名称…… 5
標準付属品…… 6
仕様…… 6
別売部品…… 7
ご使用前の点検…… 8

使い方

工具の取付け・取りはずし…… 9
作業モードの設定…… 10
回転方向の切替え…… 11
ストッパの使い方…… 11
回転数・打撃数の調整…… 12
スリップクラッチ機構について…… 12
穴をあける…… 13
ハツリ・破砕する…… 14
穴をあける・ねじを締付ける…… 15
テーパシャンクアダプタの使い方… 17
ダストカップ・集じんカップ (B) の使い方 … 18
コアビット (軽負荷用) の使い方… 19

その他

保守・点検…… 21
ご修理のときは……裏表紙

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

注 ：**製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。

② 作業場の周囲状況も考慮してください。
- 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
- 作業場は十分に明るくしてください。
- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

③ 感電に注意してください。
電動工具を使用中、身体を、アース (接地) されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）

④ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
- 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。

⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

⑥ 無理して使用しないでください。
安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⚠警告

⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
- 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
- 指定された用途以外に使用しないでください。

⑧ きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
- 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
- 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

⑨ 保護メガネを使用してください。
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

⑩ 防音保護具を着用してください。
騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。

⑪ コードを乱暴に扱わないでください。
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。

⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。
常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。
- 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- コードを点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
- 延長コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
- 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。

⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用しない、または、修理・調整・点検する場合。
- 刃物、トイシ、ビットなどの付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
- その他、危険が予想される場合。

⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⚠警告

⑰ 不意な始動は避けてください。
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

⑱ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

⑲ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
- スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は、専門店に依頼してください。
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

二重絶縁について

二重絶縁とは、電気が流れる部分と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に ⧈ マークで表示してあります。
純正品以外の部品と交換したり、間違って組立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。電気系統の修理や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

本製品の使用上のご注意

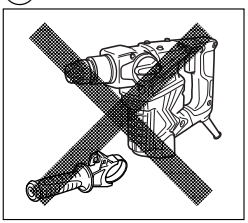
先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、ロータリハンマドリルとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

① **使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると、速度が異常に速くなり、けがの原因になります。

② **作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。**
埋設物があると工具が触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。

③



③ **使用中は、振り回されないようにサイドハンドルを付け、機体を両手で確実に保持してください。**
確実に保持していないと、けがの原因になります。

④ **使用中は、工具類に手や顔などを近づけないでください。**
けがの原因になります。

⑤ **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。**
そのまま使用していると、けがの原因になります。

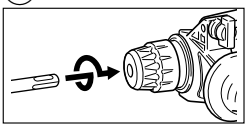
⑥ **誤って落としたり、ぶつけたときは、ドリルや機体などに破損や亀裂、変形がないことを良く点検してください。**
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

⑦ **シリカや石綿 (アスベスト) は人体に有害です。このような成分を含んだ材料を加工するときは、防じん対策をしてください。**

⚠注意

① **工具類や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。**
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。

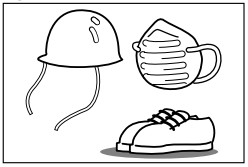
①



② **使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。**
回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。

③ **作業中は、ヘルメット、安全靴を着用してください。**

③



④ **作業直後の工具類は高温になっているので、触れないでください。**
やけどの原因になります。

⚠注意

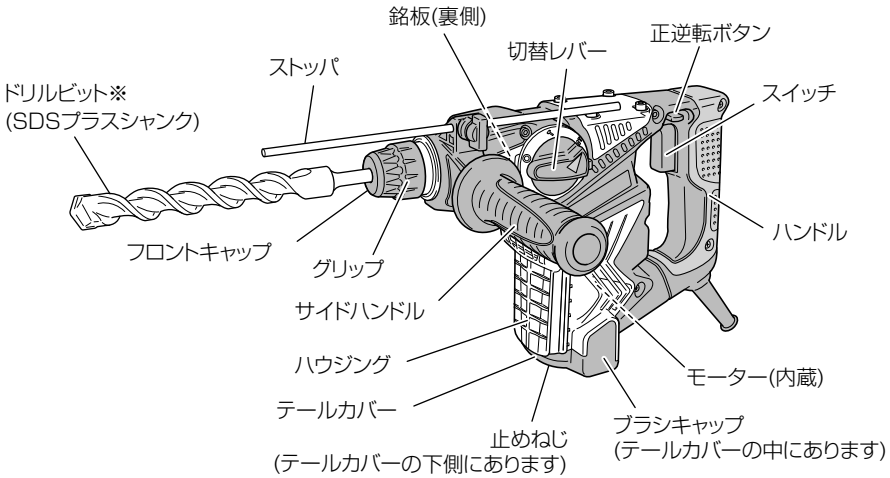
⑤ **高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。**
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。

⑥ **運転させたまま、台や床などに放置しないでください。**
けがの原因になります。

⑦ **作業の際、機体を無理に押し付けないでください。**
先端工具を傷めて作業効率が低下するだけでなく、機体の寿命低下につながります。

○騒音防止規制について
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

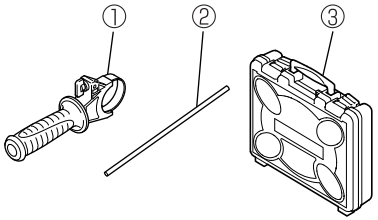
各部の名称



※ドリルビットは別売です

標準付属品

① サイドハンドル（本体装着）…… 1 個
② ストッパ …… 1 個
③ プラスチックケース …… 1 個



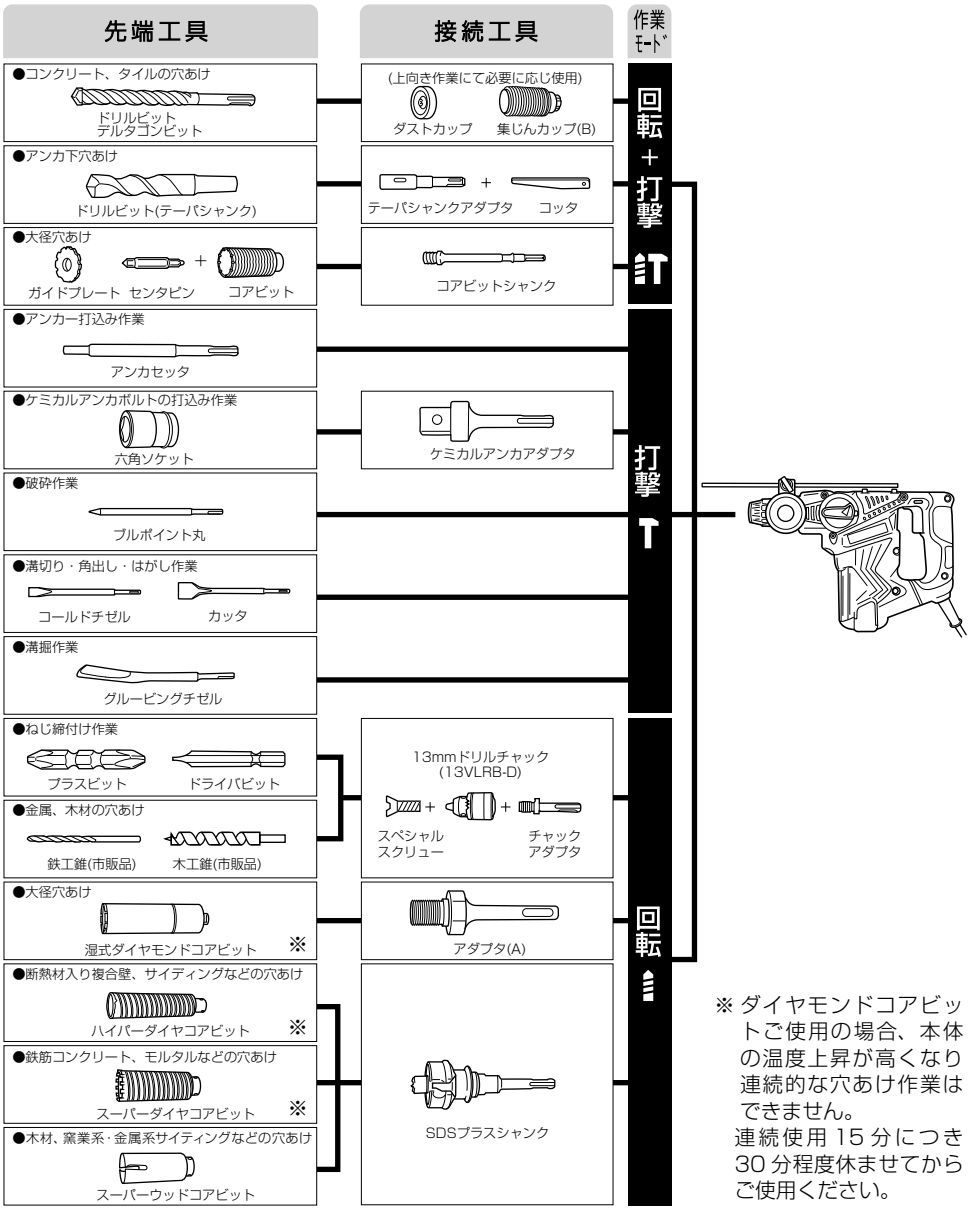
仕　様

使用電源	単相交流　50/60 Hz 共用　電圧 100 V
穴あけ能力	コンクリート 4 ～ 28 mm、鉄工 13 mm、木工 32 mm
全負荷電流	7.6 A
消費電力	720 W
無負荷回転数	0 ～ 1,050 min^{-1} {回 / 分}
全負荷打撃数	0 ～ 4,000 min^{-1} {回 / 分}
モーター	単相直巻整流子モーター
質量	3.5 kg (コード、サイドハンドルを除く)
コード	2 心キャブタイヤケーブル　5 m
振動 3 軸合成値※1	回転 + 打撃　14.8 m/s^2 ※2　打撃　18.2 m/s^2 ※2

※ 1: 振動 3 軸合成値 (周波数補正振動加速度実効値の 3 軸合成値) については、
JEMA [一般社団法人日本電機工業会]
ウェブサイト : http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html
をご参照ください。
※ 2: 振動 3 軸合成値は、EN60745-2-6 規格に基づき測定しています。

別売部品（別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください）

用途に応じた先端工具 (アタッチメント) をご使用いただくことで、いろいろな作業にご利用できます。
詳しくは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。



※ ダイヤモンドコアビットご使用の場合、本体の温度上昇が高くなり連続的な穴あけ作業はできません。
連続使用 15 分につき 30 分程度休ませてからご使用ください。

ご使用前の点検

●漏電しゃ断器の設置

本製品は二重絶縁構造のため、法令により漏電しゃ断器の設置は免除されています。
しかし、万一の感電を防止するためにも漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

●延長コードを使う場合

コードの太さ 1.25 mm^2 以上の太さで、できるだけ短いコードをご使用ください。

右表は使用できるコードの太さと、最大の長さです。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

⚠警告

延長コードは損傷のないものを用意してください。

コードの太さ (mm^2)（導体公称断面積）	最大の長さ（m）
1.25	15
2	25
3.5	45

●使用電源の確認

○ **必ず銘板に表示してある電源で使用してください。**
表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が破壊する恐れがあります。

○ **直流電源や変圧器、溶接機などの電源で使用しないでください。**
製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

●コンセントの確認

電源プラグがガタついたり、抜けやすいコンセントは修理が必要です。

修理には電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店などにご相談ください。
修理せずにそのまま使用すると、過熱して事故の原因になります。

●サイドハンドルの確認

製品出荷時サイドハンドルは十分に締付けてありませんので、使用状況に合わせた角度に固定してください。

工具の取付け・取りはずし

⚠警告

工具の取付け・取りはずしの際、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

⚠注意

工具は当社指定の別売部品を使用してください。
(P.7「別売部品」参照)

この機体の工具取付け部は SDS プラスシャンク品専用となっております。
SDS プラスシャンクの先端工具または各種アダプタを使用してください。

取付け

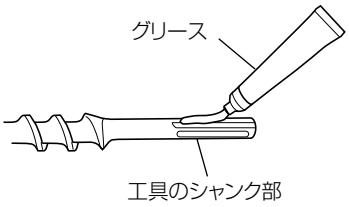
1 工具のシャンク部をきれいに拭き、グリースまたは機械油を塗布します。

2 工具をフロントキャップの穴にさし込み奥まで突き当てます。

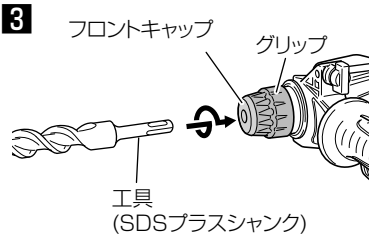
3 工具を軽く押しながら回していくと、ひっかかりのある箇所が確認できます。
その箇所で、工具を矢印方向へ奥に突き当たるまで押し込みます。
(工具装着時は、グリップの操作不要です。)

4 確実に工具が固定されたか、工具を引いて確認します。

1

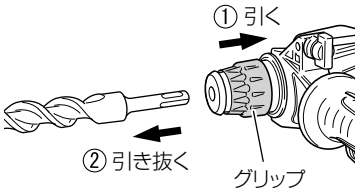


2 **3**



取りはずし

工具を取りはずすときは、グリップを矢印方向へ一杯に引き、工具を引き抜きます。



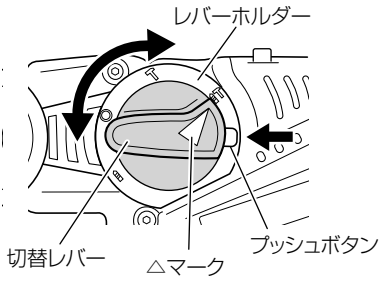
作業モードの設定

⚠注意

- **モーター停止時に切替レバーを操作してください。**
  モーターの回転中に切替えると、不意に工具が回り、思わぬ事故の原因になります。
- **ハツリ・破砕用工具などは必ず " 打撃 " モードで使用してください。**
  " 回転＋打撃 " モードで使用すると、工具が回り、思わぬ事故の原因になります。

作業モードの設定

プッシュボタンを押しながら、切替レバーを回して△マークをレバーホルダーの各マーク位置に合わせます。

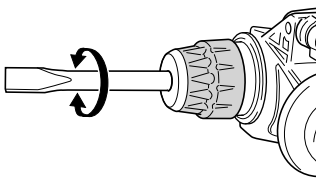


- ……" **回転＋打撃** " モード
- T ……" **打撃** " モード
- ◎ ……**工具の位置決め**
- ……" **回転** " モード

工具先端の向き決め

コールドチゼルやカッタなどの工具先端の向きを決めるときは、△マークを◎（工具の位置決め）に合わせて、プッシュボタンをはなし、工具を回して工具先端の向きを決めます。

次に、プッシュボタンを再び押して、T（" 打撃 " モード）に△マークを合わせて、プッシュボタンをはなします。



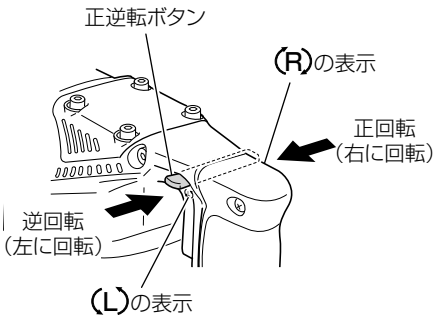
注
- **確実にロックされているか、プッシュボタンを押さないで切替レバーが回らないことを確認してください。**
- **" 回転 " でする作業を " 回転＋打撃 " の状態で行うと穴あけ能率が上がらないばかりでなく先端工具を傷めるので、十分注意してください。**
  ねじを締付ける場合は必ず " 回転 " の状態で行ってください。
  また、" 打撃 " でする作業の場合は、必ず回転方向を正回転の Ⓡ 側に切替えてください。
- **切替レバーの操作の際は、必ずプッシュボタンを押して切替レバーのロックを解除してから行ってください。**

回転方向の切替え

右図のように正逆転ボタンの(R)側を押し込むと先端工具はハンドル側から見て正回転(右回り)、(L)側を押し込むと逆回転(左回り)に切替わります。

((R)(L)はハンドルに表示してあります。)

注 **運転中は回転方向の切替えはできません。切替える場合は、必ずスイッチを切ってから正逆転ボタンを押してください。**

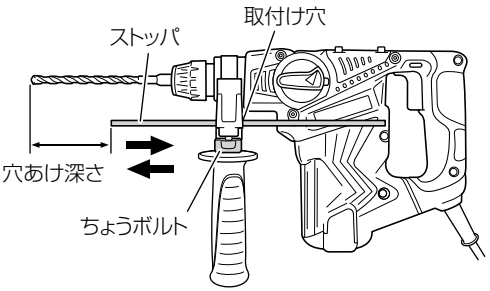


ストッパの使い方

付属のストッパは穴あけ深さの調整に用いるものです。
同じ深さの穴を連続してあける場合は、能率が上がり、穴の深さが正確になります。

1 ちょうボルトをゆるめ、取付け穴にストッパを通します。

2 所定の穴深さになったときストッパが材料に突き当たる位置に移動させ、ちょうボルトで固定します。



回転数・打撃数の調整

回転数は、スイッチの引きぐあいにより 0 ～ 1,050 min^{-1} {回 / 分} まで調整できます。
また、回転数に比例して打撃数も 0 ～ 4,000 min^{-1} {回 / 分} の範囲で変化します。

スイッチを引くにしたがって回転が上がり、いっぱいに引いたときに回転数は 1,050 min^{-1} {回 / 分}、打撃数は 4,000 min^{-1} {回 / 分} になります。

タイル、レンガなどのもろい材料への穿孔は低速でお使いください。
割れが入りにくくなります。コンクリートなどには高速でお使いください。

スリップクラッチ機構について

この機構は、作業中の本体に急激に大きな負荷(注1)がかかったとき、モーターとビットの間の伝達部をスリップさせて、大きな反力(注2)がかかることを防止します。

注 1：コンクリートの穴あけ中に、鉄筋等に当たり急にドリルビットが止まろうとする力
注 2：先端工具が急に止まったとき、反動で工具本体側が回ろうとして、持っている手がねじられる力

注 スリップクラッチが作動し、ビットの回転が停止した場合には、すみやかにスイッチを切ってください。

穴をあける

"回転＋打撃"モードで
コンクリート、アンカ下穴の穴あけ作業

⚠警告

- **工具・ストッパの取付けや取りはずしの際、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- **サイドハンドルとハンドルをしっかり握って作業してください。**
  工具が鉄筋などに当たると急に止まり、その反動で機体が回ろうとします。

⚠注意

作業の際、機体を無理に押し付けないでください。
先端工具を傷めて作業効率が低下するだけでなく、機体の寿命低下につながります。

1 工具を取付ける

P.9 の「工具の取付け・取りはずし」の手順に従い工具を取付けます。

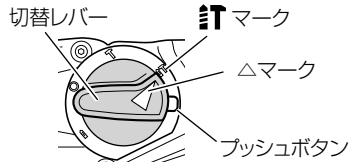
2 必要に応じてストッパを取付ける

P.11 の「ストッパの使い方」を参照してください。

注 **ちょうボルトを紛失しないように、ストッパを使用しない場合でも、ちょうボルトをしっかり締めてください。**

3 作業モードを"回転＋打撃"に切替える

プッシュボタンを押しながら切替レバーを T に合わせます。
(P.10「作業モードの設定」参照)



4 正逆転ボタンを Ⓡ 側から押して正回転にする

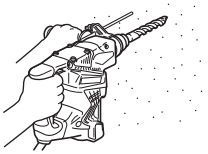
(P.11「回転方向の切替え」参照)

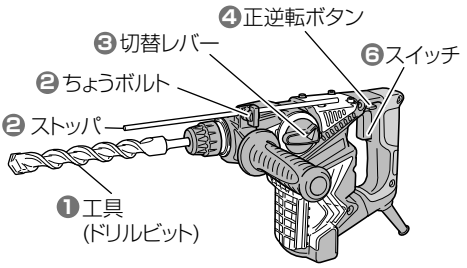
5 電源プラグをコンセントにさし込む

6 スイッチを入れる

- 穴あけ位置に工具の先を当ててからスイッチを入れます。
- スイッチの引きぐあいで回転数を調整してください。

(P.12「回転数・打撃数の調整」参照)





ハツリ・破砕する

" 打撃 " モードでコンクリートの
ハツリ・破砕・溝掘り・角出し・はがし作業

⚠警告

工具の取付け・取りはずしの際、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

1 工具を取付ける

P.9 の「工具の取付け・取りはずし」の手順に従い工具を取付けます。

2 工具の向きを決める

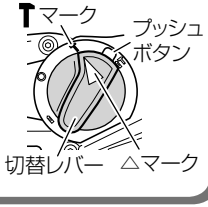
コールドチゼルやカッタを使用するときは、プッシュボタンを押しながら切替レバーを◎に合わせ、工具先端の向きを決めます。
(P.10「作業モードの設定」参照)

⚠注意

ハツリ・破砕用工具などは必ず " 打撃 " の位置で使用してください。
" 回転＋打撃 " の位置で使用すると、工具が回り、思わぬ事故の原因になります。

3 作業モードを " 打撃 " に切替える

プッシュボタンを押しながら切替レバーを T に合わせます。
(P.10「作業モードの設定」参照)



⚠注意

作業の際、機体を無理に押し付けないでください。
反動を押さえる程度に押し付けて作業してください。無理に突きさしたり、押さえ付けても作業の効率は上がりません。床面のハツリ・破砕の際には、機体の自重を利用し、反動を押さえる程度に押し付けて作業してください。

4 正逆転ボタンを Ⓡ 側から押して正回転にする

(P.11「回転方向の切替え」参照)

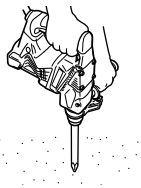
注 **ちょうボルトを紛失しないように、ストッパを使用しない場合でも、ちょうボルトをしっかり締めてください。**

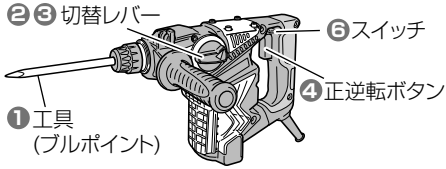
5 電源プラグをコンセントにさし込む

6 スイッチを入れる

- ハツリ・破砕する位置に工具先端を当ててからスイッチを入れます。
- スイッチの引きぐあいで回転数を調整してください。

(P.12「回転数・打撃数の調整」参照)





使い方

穴をあける
ねじを締付ける

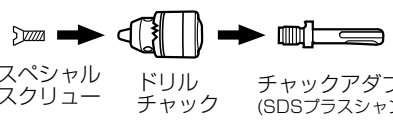
"回転"モードで金属・木材の穴あけ作業
小ねじ・木ねじの締付け作業【別売部品を使用】

⚠警告

- 工具やストッパの取付け・取りはずしの際、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用中、振り回されないように、サイドハンドルとハンドルをしっかり握って作業してください。

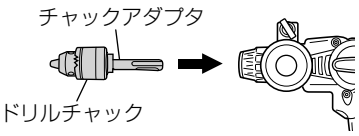
注 穴あけ、ねじ締めを行うには別売のチャックアダプタセットが必要です。別途、お買い求めください。

1 ドリルチャックにチャックアダプタを取付ける

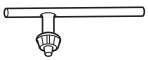


2 機体にチャックアダプタを取付ける

P.9 の「工具の取付け・取りはずし」の手順に従い工具を取付けます。



3 市販の錐(ドライバビット)をチャックハンドルを使ってドリルチャックに取付ける



4 作業モードを"回転"に切替える

切替レバーを に合わせます。
(P.10「作業モードの設定」参照)

5 正逆転ボタンを押して回転方向を合わせる

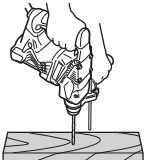
(P.11「回転方向の切替え」参照)

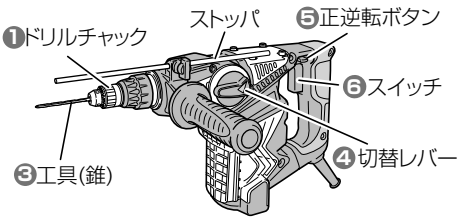
注
- チャックアダプタを使用して"回転+打撃"の作業はしないでください。故障の原因になります。
- ちょうボルトを紛失しないように、ストッパを使用しない場合でも、ちょうボルトをしっかり締めてください。

6 電源プラグをコンセントにさし込み、スイッチを入れる

- 作業を開始する前に右ページの内容を良く読んでください。
- スイッチの引きぐあいで回転数を調整してください。

(P.12「回転数・打撃数の調整」参照)





⚠注意

- **作業の際、機体を無理に押し付けないでください。**
  先端工具を傷めて作業効率が低下するだけでなく、機体の寿命低下につながります。
- **穴の抜けぎわに錐を折ることがありますので、穴の抜けぎわに機体を材料に押し付ける力をゆるめてください。**

●木材に木ねじを締付ける

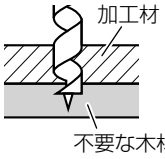
ねじの径より少し細い錐で下穴をあけておくと木材に割れが入ったりせず、作業がらくにできます。
下表を参考にしてください。(できるだけプラス溝の木ねじをご使用ください)

木ねじ呼び径 (mm)	下穴径 (mm)	プラスビット No.	マイナスビット
3.1	2.0 ～ 2.2	No.2	4 mm
3.5	2.2 ～ 2.5		
3.8	2.5 ～ 2.8		6 mm
4.5	2.9 ～ 3.2		

●木材にきれいな穴をあける

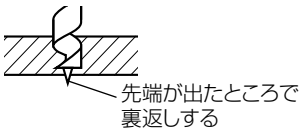
不用な木材を下に敷き、加工材と一緒にあける

木工錐が裏側へ突きぬけるときに発生するバリを防ぐことができます。



または

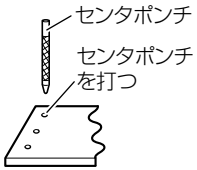
木工錐の先が少し裏側に出たときに、裏側から穴をあける



●金属へ上手に穴をあける

市販のセンタポンチを使用する

鉄工錐の先がすべらず、決まった位置に穴あけができます。



さらに

鉄工錐の先に機械油か石けん水を付ける

穴があけやすくなります。

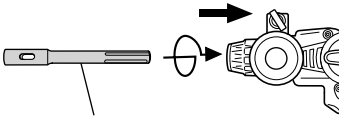
注 **金属に穴をあける場合、穴の抜けぎわに大きな力がかかり、錐がドリルチャックからすべることがあります。このような場合は、工具本体の押し付け力を弱め、錐がすべらないようにしてください。**

テーパシャンクアダプタ【別売部品】の使い方

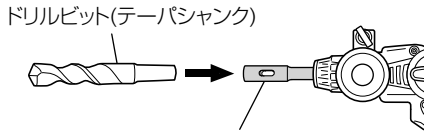
テーパシャンクアダプタを取付けますとテーパシャンクタイプのドリルビットをご使用になれます。

1 テーパシャンクアダプタを機体に取付ける

P.9 の「工具の取付け・取りはずし」の手順に従いテーパシャンクアダプタを取付けます。



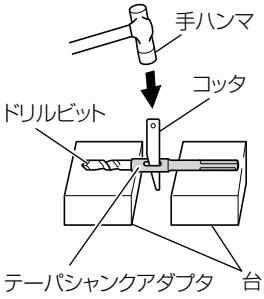
2 ドリルビットをテーパシャンクアダプタにさし込む



3 以下 P.13 の❷からの手順に従い作業する

4 ドリルビットをテーパシャンクアダプタから取りはずす

テーパシャンクアダプタの長穴部分にコッタを入れ、コッタの頭を手ハンマでたたいてはずします。



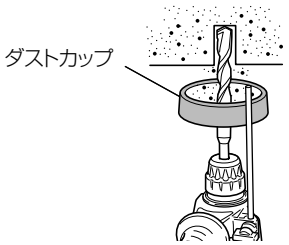
ダストカップ・集じんカップ (B)【別売部品】の使い方

上向き作業をする場合は、ダストカップまたは集じんカップ (B) を取付けますと、切粉の落下が少なく、作業がしやすくなります。

ダストカップを使用する場合

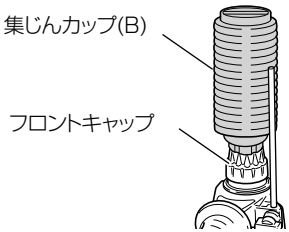
ダストカップは図のように、ドリルビットに取付けてご使用ください。

太径のドリルビットの場合は、ダストカップの中央の穴をドリルビットでひろげてご使用ください。



集じんカップ (B) を使用する場合

集じんカップ (B) を使用する場合は、ドリルビットを取付けた後、集じんカップ (B) を図のように先端から押し込んでください。



注 • **ダストカップおよび集じんカップ (B) は、コンクリートの穴あけ専用です。**
金属、木材の穴あけには、使用しないでください。

- **集じんカップ (B) はフロントキャップに密着するよう十分に押し込んでください。**
- **集じんカップ (B) をコンクリート面からはなした状態でスイッチを入れると、集じんカップ (B) がドリルビットと一緒に回転してしまい、集じんカップ (B) がグリップ部からはずれることがあります。**
必ずコンクリート面に押しつけてからスイッチを入れてください。
〔全長 190 mm 以上のドリルビットと共に集じんカップ (B) を使用すると、集じんカップ (B) がコンクリート面に接触せず、回転してしまいます。集じんカップ (B) は全長 166 mm、160 mm、110 mm のドリルビット用として使用してください。〕
- **粉じんは穴あけ 2 ～ 3 本ごとに捨ててください。**
- **ドリルビットの交換はダストカップ、集じんカップ (B) をはずしてから行ってください。**

コアビット (軽負荷用)【別売部品】の使い方

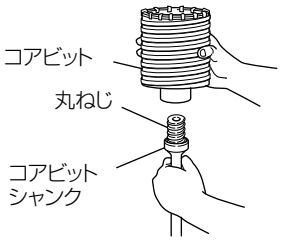
コアビット (軽負荷用)、センタピン、コアビットシャンクなどのコアビット用別売部品をご使用になりますと、大口径の貫通穴、止まり穴をあけることができます。

⚠注意

コアビットシャンク、ガイドプレート、センタピンの取付け、取りはずしの際、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

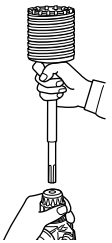
1 コアビットシャンクにコアビットを取付ける

丸ねじ部に油を塗っておくと、分解するときにゆるみやすくなります。



2 コアビットシャンクを機体に取付ける

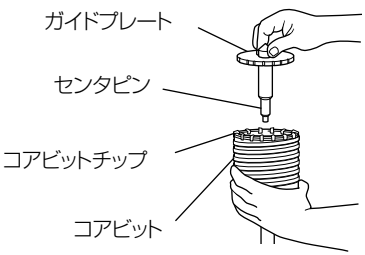
P.9 の「工具の取付け・取りはずし」と同じ要領で取付けます。



3 ガイドプレート、センタピンをコアビットにさし込む

① ガイドプレートにセンタピンを奥までさし込みます。

② ガイドプレートの凹部をコアビットチップに合わせてはめ込み左・右どちらかに回します。



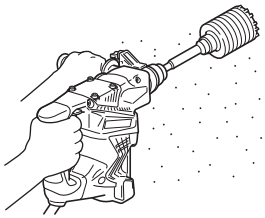
4 作業モードを " 回転＋打撃 " に切替える

P.10 の「作業モードの設定」を参照してください。

5 電源プラグをコンセントにさし込む

6 スイッチを入れる

- あけたい穴の中心にセンタピンを合わせ、穴あけを開始します。
- スイッチの引きぐあいで回転数を調整してください。
  (P.12「回転数・打撃数の調整」参照)

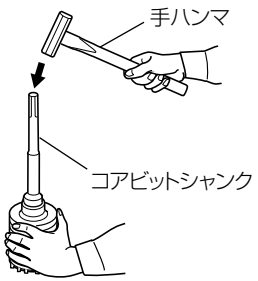


7 位置決めの完成

約 5 mm 穿孔すると位置決めの溝が完成します。
コアビットからセンタピン、ガイドプレートを取りはずして、完成した位置決めの溝に合わせて穴あけをすすめます。

8 コアビットを取りはずす

機体からコアビットシャンクをはずしてコアビットを手で持ち、コアビットシャンクの頭を手ハンマで 2 ～ 3 回強打すると、丸ねじがゆるみ、取りはずすことができます。



保守・点検

⚠警告

点検・お手入れの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

●グリースの交換

この機体はグリース密封構造となっていますので、ほこりの侵入を防ぎ、グリースは漏れない構造となっています。従って、長期間無給油で使用できます。
なお、機体を長持ちさせるために１年ごとにグリースの交換をしてください。

注 **機体へ使用しているグリースは特殊グリースです。**
他のグリースを使用した場合、性能を著しく損なう恐れがありますので、必ずグリースの交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

●工具の点検

摩耗した工具をご使用になっておりますとモーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますから早めに研磨するか新品と交換してください。

●機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやねじのゆるみがないか定期的に点検してください。
ねじがゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります
異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

●モーターの取扱いについて

モーター (内蔵)(P.5「 各部の名称 」参照) に油や水が浸入ないよう十分に注意してください。

注 **ゴミやほこりを排出するため、使用後は、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をテールカバーの風穴から吹き込んでください。**
モーター内部にゴミやほこりがたまると、故障の原因になります。

●製品や付属品の保管

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

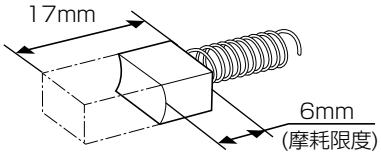
注
- **お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所には保管しない。**
- **軒先など雨がかかったり、湿気のある場所には保管しない。**
- **温度が急変する場所、直射日光の当たる場所には保管しない**
- **引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所には保管しない。**

●カーボンブラシの点検

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。
カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度（6 mm ぐらい）になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシは、ごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

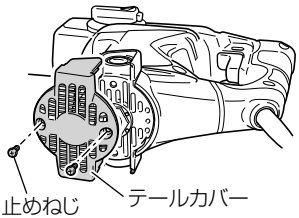
注 **新品のカーボンブラシと交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシを使用してください。**



●カーボンブラシの交換方法

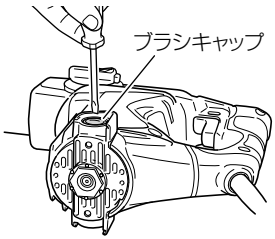
1 テールカバーをはずす

止めねじをゆるめ、テールカバーをはずします。

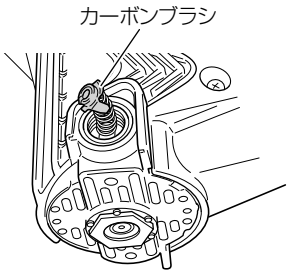


2 ブラシキャップをはずす

マイナスドライバーなどで反時計方向に回してはずします。



3 カーボンブラシを取り出す



4 新しいカーボンブラシを取付ける

① ブラシホルダの角穴に合わせてカーボンブラシを指で押し込みます。

② ブラシキャップをしっかりと締め、テールカバーを2本の止めねじでしっかりと取付けます。

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　月　日	製造番号 (NO.)
販売店（TEL）	

全国営業拠点

お客様相談センター　※土・日・祝日を除く　9：00～17：00

●フリーダイヤル
0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部	●北陸支店
TEL (03)5783−0626	TEL (076)263−4311
●北海道支店	**●関西支店**
TEL (011)896−1740	TEL (0798)37−2665
●東北支店	**●中国支店**
TEL (022)288−8676	TEL (082)504−8282
●関東支店	**●四国支店**
TEL (03)6738−0872	TEL (087)863−6761
●中部支店	**●九州支店**
TEL (052)533−0231	TEL (092)621−5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html

WEB にアクセス

バーコードリーダー機能付きの携帯端末より読み取ることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号 (品川インターシティ A 棟)
営業本部　TEL (03) 5783-0626（代）

電動工具ホームページ――http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/

部品コード　C99174805　808 F